



サケ & 日本ビール +ギネスビール

watching in Dublin 2013

アイルランドのダブリン



(page1/3)

ダブリンの「イザカヤ」

「YAMAMORI やまもり」はダブリン中心部に麺類、居酒屋、寿司など日本食レストランを4店舗構えるジャパニーズのお店。その1店舗、「IZAKAYA イザカヤ」。

「一寸一ぱいお気軽に」と書かれた赤提灯は日本だとちょっと気恥ずかしいが、ダブリンで見ると、..、なんだかうれしい。店内は新橋か神田の居酒屋のような雰囲気。日本人客は当方だけだったが、地元のお客さんでほぼ満席。

6年前にも(ギネスビール研究所にラボ用ビール缶詰機を納入に来たときにも)「やまもり」に入ったのですが、当時は2店舗だった。6年で2店舗増えて4店舗になったということは、日本人人気の証。オーナーは日本人ではなく、アイルランド人とのこと。



すべて「菊盛」

「IZAKAYA」のサケメニューはこんな具合。「純米、樽酒、うす濁り、山廃・・・」と、酒の種類だけ書いてあって、銘柄名が書かれていない珍しいパターン。

「銘柄を教えて」と頼むとサケボトルを持ってきてくれた。このお店のサケはすべて「菊盛」(木内酒造)だそう。回転がいいのか、保管がいいのか、サケはフレッシュな味だった。(「ネストビール」ー木内酒造の地ビールーも飲める。次ページ参照)



サケ & 日本ビール +ギネスビール

watching in Dublin 2013

アイルランドのダブリン



(page2/3)

「プレミアムモルツ」 in Dublin

「イザカヤ」のメニューには、「キリン」、「アサヒ」、「サッポロ」、「エビス」(各5.2€)とともに、驚いたことに「サントリー・プレミアムモルツ」(5.5€)があった。(キリン、アサヒ、サッポロの3社は委託醸造したビールをヨーロッパで積極展開しているが、サントリーはヨーロッパではビールを販売していないはず。) そのプレモルを頼んでみると、ラベルは日本語、日本仕様のままのボトル。たぶん、日本から小規模に個人輸入された物。そんなやり方もあるんだと感心。



「グルテン・アレルギー」

ビールメニューの中に、「グルテン・フリー」がひとつ入っています。「イザカヤ」では、食事メニューにもいくつかの料理名の横に「V」や「C」と書いてある。Vはヴェジタリアン向けだろうけれど、Cは、、、？イスラムのHalal ハラル、ユダヤのKosher コーシャとも違うしなあ、、、と思ってお店の人に尋ねると、「coeliac disease」、日本語で「シリアック病」の人向けとのこと。調べてみると、小麦や大麦の「グルテンアレルギー」や「グルテン不耐症」のこと。アイルランドでは多いとっていました。グルテンアレルギー、ピーナッツアレルギー(アメリカ)、花粉症(日本)、アトピー(日本)など、国によって発現頻度の高いものは異なりますが、先進国では確実にアレルギーの人口は増えているようです。

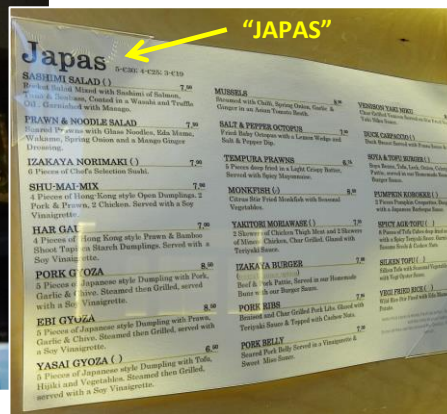


様々な日本食レストラン1

日本食レストランだけれど、このお店は韓国系。店の奥の棚の一升びんを見ると「寿福」とある。これはLOTTE酒類の製造する清酒、「白花寿福」。



「寿福」
の一升びん(韓国
の清酒)



様々な日本食レストラン2

ダブリンはロンドン並みに世界中のレストランが集まっていて、ハイブリッド食文化の様相。タパスにひっつけた「Japas」という造語はよく使われているよう。このJapasメニューには、刺身サラダ、居酒屋のり巻き、野菜餃子、アンコウのから揚げ、スパイシー豆腐、などなど。日本の「つまみ」は、スシ、焼き鳥、テンプラ以上に、日本的。イザカヤの次に来るムーブメントかも！

ギネスビール:すべてアイルランド製

サケや日本ビールもさることながら、ダブリンの楽しみは「ギネスビール」。テンプルバー(ダブリンの繁華街)のバブでは、ギネスのバイントグラスを片手に盛り上がる人々が、店の外まであふれる。旅程順にグラスゴー、ロンドンとギネスを飲みながらダブリンに来たのだが、ダブリンで飲むギネスは、格別にうまい。「地元で飲む酒はオイシイ、の法則」に、最もよくあてはまる事例です。

Temple Bar,
Dublin



ROOTS can filler "BRX"
at Guinness Pilot Plant



バドワイザーもハイネケンも、麒麟もアサヒも、世界ブランドのビールは世界の各地域ごとに委託醸造先をもって、消費地に近いところから供給している。一方、ギネスビールは世界ブランドでありながら、アイルランドだけから(主にダブリン市内にある「セントジェームスゲート醸造所」から)世界中すべてのマーケットに向かって送り出している特異な事例。(数年前にロンドン醸造所を閉鎖してダブリンに集約。ナイジェリア醸造所があるが、これはアフリカ向けだけの特別仕様のギネス。)なお、セントジェームスゲートのギネスの研究所では、当社のラボ用缶詰機(LN2滴下つき)が採用されています。



St James's Gate of
Guinness Beer

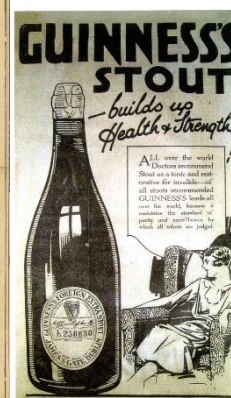
余談ながら、、「ギネスビール」と「赤玉ポートワイン」の共通性？

寿屋時代の「赤玉ポートワイン」は「健康にいい」ことをアピールしていたのは有名。ギネスもかつては「Guinness is good for your health」とアピールしていた。健康志向は万国共通。母乳が出ないのもギネスで解消？という、現在では考えられないCMも。

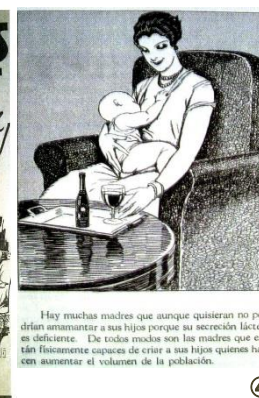
<資料出所:①大阪朝日新聞1928年9月12日の広告(東京大学総合研究博物館画像アーカイヴス日本の新聞広告3000)、②1928年のオーストラリアのギネスの新聞広告("A Bottle of Guinness please" by David Hughes)、③「母乳不足に」スペイン語(同)、④ギネス土産のレトロ広告の冷蔵庫マグネット>



①「補血 強壯飲料」
赤玉ポートワイン



②Guinness Stout builds up
Health & Strength



③「母乳不足にギネス」



④さすがに今は「good for your health」とはかけないので「good for you」